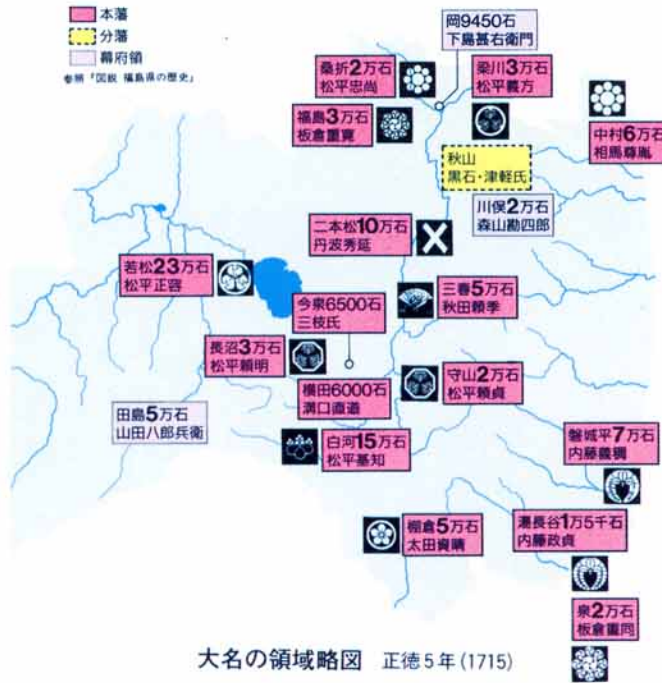
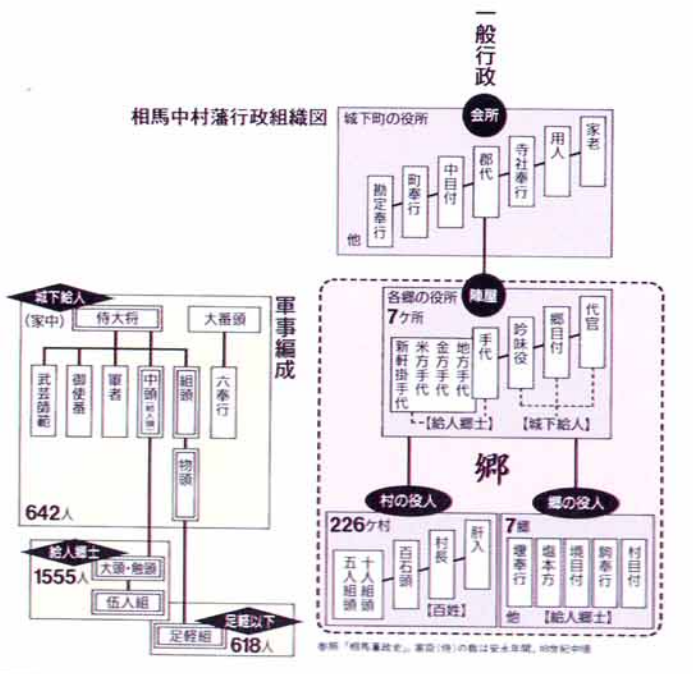


大名領域略図 正徳5年(1715)



大名の領域略図 正徳5年(1715)

相馬中村藩行政組織図



### 相馬中村藩の行政組織と軍事編成

中村城下には、藩内の行政・裁判を行う会所が置かれ、会所—郷—村（郡代—代官—肝入）の支配体制が確立していた。また、各郷には陣屋が置かれ、そこで代官支配が行われた。村には肝入の下に、村長・百石頭がおかれ、肝入を補佐した。

軍事に際しては、侍大将以下各役職があり、それも編成されていた。

### 大名の領域略図

相馬領の周辺には、江戸時代を通じて北に伊達家（城下仙台62万石）の領域があった。そのほか江戸時代前期の正徳5年(1715)当時、北から松平忠尚（城下桑折2万石）、松平義方（城下梁川3万石）、板倉重寛（城下福島3万石）、丹羽秀延（城下二本松10万石）、秋田頼季（城下守山2万石）、内藤義稠（城下平7万石）等の大名領と川俣などの幕府領（代官支配）があった。しかし、ほかの地域では領地替えなどにより領主が変わったり、一部幕府領となったりしたが、相馬領は変わらなかった。